

協進レター77号

平成24年5月29日

ゴールデンウィークも終わり良い季節になりました。この季節、不特定多数のご利用が本当に冷え込むのが毎年です。やはり、特定多数のファン客をいつも大事にしないといけない、新たなファン客を創造していかないとだめですね！**協進交通は、「サービスの視点に立ち、お客様満足ではなくお客様の記憶に残る、お客様に『感動・感謝・感激』を覚えていただくサービスの提供を目指し続けることです」。**そして、「お客様だけでなく、お取引先、社員及びその家族等関係する人々全ての成幸を求め、地域社会のインフラとして必要な企業になることを目指し続けることです。」を、思い出して下さい。毎日のお仕事ご苦労様です。ありがとうございます。

4月から3年生になった孫娘が、新学期の前にして今までのクラスメイトと別れてしまうかもしれない不安と、新しいクラスがどんなクラスになるのかの期待感を話しながら、準備しなければならないことを「面倒くさい」とか、「好きじゃあないからやらない」とか、「出来ないからやりたくない」と、マイナス言葉を連発しました。そんな彼女に腹を立て、「じゃあ3年生にならなくていい！」と、つい語気を荒げてしまいました。

翌朝には、何にもなかったように接していましたが、わが孫娘のマイナス言葉の連発は、自分を投影しているのではないかと、ガッカリしたし反省させられる一幕でした。

皆もありませんか？やるべき事柄を出来ない理由を並べ立て、自分がやらなくても済むように自身の正当性をことさら主張してしまうこと。やる前からこれでは、出来

ることも出来なくなります。自らの可能性を自分で信じていないし、過去の失敗に洗脳されていて、将来の可能性に自分で蓋をしてしまっています。

「目標」を掲げて前に進もうとすると、必ずそこに摩擦や困難が付きまといます。だからと言って、これを嫌がり、面倒だから、どうせ出来ないからと、目標を持たずに手をこまねいていると、その人生は常に用意されたものだけで構成される、微温低調な人生となるのは明らかです。

「目標」＝「意思」と言われます。「必ずやり遂げるぞ！」という、強い信念がなければそれは目標ではないのです。現在の自分を取り巻くマイナス要因だけを前提に、その先の将来を思い浮かべて〈無理だな・・・〉と、初めから諦めてしまうのは、目標ではなく単なる将来の「予想」です。

目の前に立ちはだかる問題は、現状とあるべき理想とのギャップです。その溝の一つ一つをどう埋めていくかが、意義のある人生ではないでしょうか。自分は「目標」を持ってそれに向かって、努力を惜しまない積極的な人生を歩んでいるのか。それとも、困難から逃げ回り上手く立ち回って、未確定・未確実な「予想」に縛られた人生に甘んじるのか。自分に対して妥協のない姿勢で、今一度チェックしてみようという気になりました。

「目標」か「予想」か、それは大きな問題だと考えさせられた、家庭での団欒の一コマでした。彼女は、準備万端3年生になっていますが、何にもしなくても3年生には、なっていたはずです。昨日は割り算の宿題を質問されました。「割り算ができるようになる」という、目標に向かっていきます。さて、**自分はどんな目標にむかっているのか、私も再確認する機会をいただきました。**